

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03514

研究課題名(和文)紛争地域を抱える複数の大学間オンライン授業プログラム - その改善に向けた評価 -

研究課題名(英文)Online teaching program for peace building and conflict resolution to university students across Asian countries: Evaluation for improvement

研究代表者

宮城 徹 (Miyagi, Toru)

東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授

研究者番号：30334452

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：(1)他国の学生とオンラインで対話する機会を設ける授業により、参加学生は異なる文化に対する視点と理解を見直すきっかけが得られたことが明らかとなった。(2)受講により、学生の武力行使の非道徳性を無視する傾向が低減することが示されたが、これは授業の効果とみなすことができる。(3)プロセス評価の一環として、受講生に対する質問紙調査を複数回実施したところ、授業に対しては概ね高い評価が得られたが、通信回線の不安定さと他大学の学生同士の討論の時間の少なさ、共通言語としての英語力について国によって差がある、等の指摘があった。それらを授業運営者にフィードバックし、プログラム改善を図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
高等教育における平和構築・紛争予防教育プログラムの内容及び実施について、アウトカム評価及びプロセス評価の観点から検討し、改善を図った。

COVID-19の流行もあり、今後ますます盛んになるであろうオンライン教育、他国の複数の大学間での同一教育プログラムの共同実施、等についての知見と技法を深めるとともに、その改善のための評価法を整備した。

研究成果の概要(英文)：(1) It became clear that the class that included interacting with students from other countries online provided an opportunity for the participants to reconsider their perspectives and understandings of different cultures. (2) It was shown that participating in the classes reduces the tendency to moral disengagement with using force among the students, which can be regarded as the effect of the program. (3) As part of the process evaluation, a questionnaire survey was conducted several times for the students, and the class was basically highly evaluated by them. However, some problems were pointed out: Poor internet connection in some countries; infrequent discussion between students at other universities; level of English proficiency among students from country to country, etc. The lecturers were given feedback on these issues to improve the program.

研究分野：異文化間教育

キーワード：教育プログラム評価 オンライン教育 アジアの複数の大学間連携 平和構築・紛争予防教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

東京外国語大学大学院 Peace and Conflict Studies コース既に実施されている平和構築・紛争予防に関する海外の大学との遠隔授業(以下 GCP と略す)については、内容、形式等、非常に先駆的な取り組みであるが、担当者は、政治学、国際関係論、紛争学などを専門としており、教育プログラムの企画、実施、改善等については、検討の余地があると考えられた。

2. 研究の目的

はじめに教育プログラムの平和構築に及ぼす**効果**を検討する手法、プログラムの内容や手法の妥当性を振り返る手法を開発する。また 評価結果のフィードバックに基づくプログラムの発展、**改善**を実践するシステムを構築し、評価手法を含めた汎用性のある持続可能な紛争予防教育のプログラムを構築し、平和教育分野で手つかずとなっているプログラム評価モデルの適用を図る。

3. 研究の方法

(主にアウトカム評価の観点から)授業参加学生に対する質問紙調査を継続的に実施し、**学習効果**を測定、分析する。

(主にプロセス評価の観点から)参加学生・担当教員に対するインタビュー調査を通じて、授業に対する満足感、有意義感、紛争に対する意識や寛容性についての内省の変化などを検討する。これらをもとに、当該プログラムの改善を目指し、運営者(教員)に対するアドバイスをを行う。

4. 研究成果

プログラムの効果を査定するツール(測定尺度)としては民族や文化、宗教、イデオロギーなどが異なる者同士の対立である武力紛争を予防するうえでの基礎として、多様な価値観を持つ他者と効果的、建設的に関わる力を測定する尺度である**文化的知能**の重要性が明らかとなった。

その上で、教育プログラムによる育成効果の検討を行った結果、他国の学生とオンラインで対話する機会を設ける GCP により、異なる文化と関わるレディネスが醸成されることが明らかとなった。

これに加え、武力行使に対し、人がその行為の非道徳性を無視して支持、実行をする心理的メカニズムを説明する**道徳不活性**という概念に着目し、測定尺度としての心理測定学的側面からの検討、および教育プログラムによる不活性低減効果についての検討を行った。測定尺度の心理測定学的妥当性について検討をした結果、**McAlister らが作成した Peace Test と呼ばれる尺度**について、因子構造および測定内容が、武力紛争の生起に関わる**道徳不活性**を直接測定するものとして妥当であることが示された。そしてこの尺度を用いて教育プログラムの効果を測定した結果、GCP の受講によって道徳不活性が低減、すなわち**武力行使の非道徳性を無視する傾向が低減すること(授業の有用性)**が示された。

プログラム改善に寄与する評価手法の検討については、プログラム評価理論に基づき、

プロセス評価を行うことの重要性を再確認したうえで、具体的にはプログラム実施状況についての受講生の認知を、質問紙調査(主として学生の学びの深さの自己認知、授業に対する満足度と、改善要望との関連等について)によって確認した。その結果、**授業内容には十分満足であり、学びが深い受講生ほどさらに発展的な学習を欲していること、学びの深さや満足度に影響を及ぼす要因には、通信回線の不安定さと、学生同士の対話の時間の少なさが挙げられた。**さらに学生同士の対話の少なさの原因として、先述した通信回線が不安定で授業時間を十分に使用できないこと、共通言語として使用している**英語の能力**について参加国によってレベルがまちまちであること、授業の構成として**教員によるレクチャーと学生の対話の時間配分が不十分である**ことが指摘された。これらの研究成果を踏まえ、授業実践チームに対して、授業内容の改善指針について具体的に提言を行った。

最後に、本課題研究の総括として、パキスタンへ出張し、GCP 教育プログラムを受講した学生に対してインタビュー調査を行った。インタビューは、主に受講動機、授業授業を通じた学びや自身に生じた変化、改善要望、その他の印象、感想について半構造化面接を40名に対して実施した。その結果、**参加学生は紛争の解決予防に対して強い動機を抱いており、授業を通して多様な視点から解決、予防に取り組むことの重要性と意義について知ることができていた。**また改善については、上述の質問紙調査で明らかになったものと概ね同じであり、インターネット接続等の課題はあるものの、致命的欠陥は認められなかった。最後に、**受講生自身、このような多国間で連携をする授業プログラムは画期的かつ稀有であり、国際的な武力紛争の解決、予防のための取り組みとして今後も継続すべきものという印象を抱いていることが明らかとなった。**また他国の大学生と討議をすることが、彼らの異文化に対する視点や理解を見直す重要なきっかけとなっていることが分かった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 宮城徹	4. 巻 2
2. 論文標題 複数の国際紛争経験国をつなぐオンライン授業における効果と課題 - TUFS GCPの場合 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北海道国際教育研究センターブックレット	6. 最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田 満	4. 巻 13
2. 論文標題 Peace & Conflict Studiesに対するコミュニティ心理学からのアプローチ 平和構築・紛争予防教育プログラムの評価を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アカデミア（人文・自然科学編）	6. 最初と最後の頁 189～210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15119/00000908	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福田彩	4. 巻 100号
2. 論文標題 教育で平和はつくれるのか？- オンラインを用いた多国間での平和構築・紛争予防プログラムについての考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 70～91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 池田満、宮城徹、福田彩
2. 発表標題 多国間連携による平和構築・紛争予防教育の評価 受講者インタビューから
3. 学会等名 日本教育心理学会第60回総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ikeda Mitsuru; Fukuda Aya; Miyagi Toru
2. 発表標題 A Process Evaluation of an Educational Program for Peacebuilding/Conflict Prevention among Southeast Asian Nations
3. 学会等名 Society for Community Research and Action (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池田満、宮城徹、福田彩
2. 発表標題 「武力紛争解決・予防を目指した教育プログラムが受講者の道徳不活性へ及ぼす影響」
3. 学会等名 教育心理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮城徹
2. 発表標題 複数の国際紛争経験国をつなぐオンライン授業における効果と課題 - TUFS GCPの場合 -
3. 学会等名 北海道大学国際教育センター研修事業オンライン協働学習報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田満・福田彩・宮城徹
2. 発表標題 アジアの紛争経験国の大学生を対象とした平和構築紛争予防教育の実践と評価
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 池田満・福田彩・宮城徹
2. 発表標題 平和構築・紛争予防プログラムの評価 プロセス評価の試み
3. 学会等名 日本応用心理学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 池田満・福田彩・宮城徹
2. 発表標題 アジアの紛争経験国における平和構築・紛争予防教育のプログラム評価方法の検討 授業内容，方法に関わるプロセス評価の視点の探索
3. 学会等名 日本教育心理学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 池田 満
2. 発表標題 アジアの紛争経験国における紛争予防教育プログラムの方向性 プログラム評価の結果から
3. 学会等名 心理人間教育研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

紛争地域を抱える複数の大学間オンライン授業プログラム - その改善に向けた評価 -
<http://www.tufs.ac.jp/ts2/society/2017evaluationgccpcstufs/contact.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池田 満 (Ikeda Mitsuru) (90596389)	南山大学・人文学部・准教授 (33917)	
研究分担者	福田 彩 (Fukuda Aya) (90650375)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員 (12603)	